

2017年12月4日掲載

歯科医療の進歩 保険適用範囲広がる

皆さんはむし歯になったらどうしますか。通常は最寄りの歯科医院を受診して治療を受けると思っています。

現在、大抵の街には歯科医院があり、むし歯の部分を削って詰めたり、かぶせたりしてもらえます。しかしながら、このような歯科治療を一般庶民が受けられるようになったのは昭和30年頃からといわれています。

歯科医院自体は明治の頃からあったようですが大変数が少なく、そこで治療を受けられるのは上流階級の人に限られていました。

それでは昔は、むし歯になったらどうしていたのでしょうか。我慢できるうちは放置して、限界になったら他人にペンチのようなもので抜いてもらったり、糸で縛ってそれを引いて抜いたりしていたようです。当然、麻酔などありませんでしたから、かなり痛かったのではないのでしょうか。

現在では歯科治療はさまざまな技術上の進歩を遂げ、ほとんど痛みがなくむし歯の治療ができるようになりました。そして、一人一人のニーズに合った治療が選択できるようになりました。

健康保険適用の範囲も十年以上前と比べて幅が広がっています。かつては、むし歯を削って詰めたりかぶせたりすれば治療が終わることが多かったものが、現在では、口の中の環境を整え、再発を防ぐための治療も行われています。

しばらく歯科医院を受診していない方は、ぜひお口の検診に行きましょう。日々進歩する歯科医療が感じられるかもしれません。